

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 10
主査名	石田信博・同志社大商学部 教授 松澤俊雄・大阪市立大学 名誉教授
研究テーマ	地域・都市総合交通政策の研究 —地域交通政策における道路交通の意義について—
研究の目的: 個別交通と公共交通および物資輸送の政策を一体的に行うという総合交通政策の考え方は今日地域・都市交通政策の要でもある。道路の混雑緩和、環境・交通事故対策、エネルギー使用の抑制等の面から自動車利用の適正化を目指し、物資輸送(業務交通)においては輸送と交通における合理化策を追求するとともに、地域・都市における限られた交通空間を利用して、道路交通システムと公共交通システムによる統合的で全体として効率性・公平性を満たし、「都市環境」の保持・改善に向けた交通・輸送体系とその政策の確立が求められている。本年は社会・経済的な視点から、とりわけ地域交通政策における道路交通と公共交通の経済発展における意義や都市活性化に及ぼす意義について考えたい。	
研究の経過(4月～9月): 日交研低炭素交通研究グループ・学堂研究会との共同研究会も行うなか、全体研究会では、「住宅開発と交通」「公企業の規制と運営」「離島生活と地域交通—交・流・通」「地域公共交通とソーシャル・キャピタル」「英国 Oxford の P&R」「韓国地方都市の路線バスと準公営制のサービスへの影響」のテーマのもと、研究報告が行われた。また、他の研究会との共同で開催している文献研究会では、「地域公共交通と LRT」「地域公共交通における運賃統合の効果(2回)」「空港騒音と地価」の論文紹介があった。データベースについては今後の分析に資するべく、2010年の調査結果による既存データベースの一部拡充や、鉄道の運賃水準や乗継運賃制度が鉄道輸送需要や自動車交通等他の交通手段選択に与える影響についてのデータベースの形成と若干の分析にも努めた。	
下期へ向けて(課題等): 下半期では上半期に残された課題としての、総合交通政策に関する欧米の文献研究を部会として開催し理解を深めるとともに、相互依存的関係のなかで均衡を保つ鉄道利用と自動車利用の状態を質的・計量的に示し効果的インフラ整備についての方向性についての研究を進めるとともに、都市物流の効率化、都市交通と都心の活性化についての研究も進めたい。	
研究メンバー(敬称略): 石田信博(主査・同志社大学) 松澤俊雄(主査・大阪市立大学名誉教授) 秋山孝正(関西大学) 青木真美(同志社大学) 岡野英伸(近畿大学) 大井尚司(大分大学) 太田和博(専修大学) 小川雅司(羽衣国際大学) 加藤一誠(慶應義塾大学) 毛海千佳子(近畿大学) 後藤孝夫(近畿大学) 兒山真也(兵庫県立大学) 斎藤峻彦(近大名誉教授) 坂西明子(奈良県立大学) 正司健一(神戸大学) 須田昌弥(青山学院大学) 高橋愛典(近畿大学) 竹内健蔵(東京女子大学) 鶴指真志(神戸大学) 徳岡一幸(同志社大学) 中村徹(大阪産業大学) 新納克廣(奈良県立大学) 松本秀暢(神戸大学) 水谷淳(神戸大学) 水谷文俊(神戸大学) 山田浩之(京都大学名誉教授) 山根智仁(大阪商業大学)	